

—第5回国際環太平洋海洋教育者ネットワーク会議—  
(5TH IPMEN Japan 2014)  
ご報告

2014年7月10日～7月16日で開催されました掲題に関し下記にご報告致します。

2014年7月10日から第5回環太平洋海洋教育者ネットワーク会議 (5th International Pacific Marine Educators Network Conference : IPMEN 2014Japan) が東京と岩手を舞台に7日間に渡り開催されました。海外からは環太平洋の海洋教育者だけでなく、スウェーデン・ベルギーの教育者やwebでの参加 (2名) を含む22名となり、7月12日の会議では国内からのゲストを含め総勢128名が参加し大盛況での開催となりました。

1 第1日目(7月10日木曜日)



楽水会館にて研究室の学生で午前中受付準備開始、午後3時から7時まで受付対応。発表者の方々が会場の下見などを行い賑やかな受付となりました。



2 第2日目(7月11日金曜日)

早朝より築地市場場内市場で多様な日本の魚類と魚食文化を体験。引き続き豊海埠頭に停泊中の東京海洋大学の練習船神鷹丸へ移動、船内見学と船長による神鷹丸の役割などのレクチャーを受けました。また船内講義室で日本における海洋教育の実態を文科省国立教育政策研究所教育課程研究センター瀧田様からご講演いただき、終了後そのまま文部科学省へ移動しました。

文部科学省では、現在取り組まれている海洋探査プロジェクトや現在までの日本の教育の歩み等を見学。最後は大臣室で全員そろって記念写真撮影となりました。昼食後は江戸東京博物館へ移動し、江戸時代の一般市民の生活や水道の仕組みを見学、その後芝浦にある「カニ護岸」で里海ワークショップを体験し天王洲の懇親会場へ移動しました。懇親会場では、翌12日の研究発表会を皮切りに16日まで、日本の文化と海洋教育の実情や東日本大震災後地元の方々などの様にして被災した子供達に水圏環境教育を実施してきたなど地元の方々との交流の中から聞きたいという皆さんの強い思を確認しました。



7 第7日目(7月16日水曜日)

いよいよ最終日となりました。早速バスで釜石市へ移動、岩手大学三陸水産研究センターを訪問、岩手大学阿部周一特任教授を始め、北里大学笠井宏朗教授による「微生物発酵による復興支援」などの講演を拝聴、また岩手県水産技術センターでは井ノ口伸幸センター長から「津波被災後の岩手県の水産業復興支援の取り組み」に関するご講演会を開催して頂きそれぞれ環境教育を始め水産についても有意義で活発な意見交換が出来ました。

昼食は岩手大学三陸水産研究センターの計らいでセンターロビーに昼食会場を設営、教授陣を始め大学院生や研究員の方々や震災後の水圏環境の在り方についてテーブル毎に意見交換をする事が出来ました。昼食後、岩手県水産技術センターで見学と講演を終え東北新幹線新花巻駅へ移動、東京へと向かいました。東京へ到着後宿舎で休息、引き続き閉会式会場へ移動、閉会式とサヨナラパーティーで時間を忘れ、お店の方から帰るよう催促されるまで熱く語り合い次回 (インドネシア) での再開を誓い解散しました。当然のように最後は盛大な「一本締め」で締めくくりました。



To be continued.....!

今回の国際環太平洋海洋教育者ネットワーク会議 (IPMEN) は、7月10日から16日迄の7日間に渡り、日本の教育を担う文部科学省のお蔭元東京と東日本大震災で甚大な被害を被ったにもかかわらず、災害復興と共にいち早く水圏環境教育に力を入れた岩手県宮古市を中心に開催いたしました。ご参加頂いたのは環太平洋の海洋環境に関する著名な研究者やヨーロッパの環境教育研究者の皆さんで、初日から最終日まで皆さんの素敵な笑顔や真摯に学ぶ姿勢、積極的に行動する力強さに圧倒されました。また、研究発表会での質問、行く先々で開催された研究発表会での質問の多さに驚く一方、水圏環境教育や環境教育への情熱や被災地復興のため懸命に働く人々への熱い思いを強く感じる7日間でした。

国際環太平洋海洋教育者ネットワーク会議 (IPMEN) では、太平洋を囲む国々が海でつながっているにもかかわらず、地域や国々によって多様な海洋に対する認識を共有し理解を深める事を目的としています。今回の5TH IPMEN 2014 Japanも7ヶ国20名の研究者に参画して頂き、海に対するお互いの認識の違いを理解すると共に、現地を訪れ様々な体験活動に参加して頂きました。地元の人々との意見交換や、多様な文化に触れることでお互いの理解が深まり、そこから新しい価値が創造されると確信しました。さらにこの7日間を通じ強く感じた事は、私共東京海洋大学水圏環境教育実践研究室で共有している、「体験は人格形成に重要であるだけでなく人間関係の構築には欠かす事の出来ないものであり、Learning cycle『導入→探究(体験)→概念の確信→応用→情報発信』を通して自主的に学ぶことで心が成長する」という考え方・理念が水圏環境教育の基礎であり、現在進めている水圏環境リテラシーの向上がいかに重要であるかという事を再認識すると共に、世界中の多くの人達とともに共有し合う事が大切だと感じました。

海・川・海に恵まれた美しい我が国でも自然との関わりが少ない事で、自然に対する正しい知識・認識を持つことができず、豊かな環境を損ねてしまう事になりかねません。特に水圏環境は、水銀、鉛などの重金属、化学物質等による健康被害のように長期のスパンで詳細に調査しないと実証できないケースが多いのが現状です。IPMEN の様に環太平洋の海洋教育者が今回のような体験の重要性を共有しつつ、それぞれ自国の自然環境の中で海や川を通じて地元の人々と交流しお互いの考え方を学び合い、河川を含めた海洋での体験活動と水圏環境リテラシーの向上を訴え続ける事が求められていると感じました。

水圏環境教育や環境教育のスペシャリストの皆さんがさらに学ぼうとする情熱溢れる熱い姿勢に驚きを感じた7日間でした。

今回同行する機会を頂き、大変貴重で素晴らしい体験することが出来ました。皆様へのご報告が遅くなってしまった事、大変申し訳なく思っております。引き続き、ご指導ご支援頂けます様、宜しくお願い致します。

ご協力頂きました多くの関係者の皆様本当にありがとうございました。  
株式会社アースリンク・東京海洋大学 (岡本学長)・港区立港南中学校・学校法人山脇学園中等高等学校・久慈市立久慈中学校・久慈市立三崎中学校・福島県立若狭高等学校・黄川田仁志様・文部科学省・東京大学・岩手大学・岩手教育大学・北里大学・岩手県政策地域部・宮古市商業観光課・大槌町 (碓川町長)・NPO法人開伊川大学校・NPO法人もりおか中津川の会・岩手日報・盛岡タイムス・J:COM (港・新宿)・JR東日本新橋営業所・ヤサカ観光興業株式会社豊島営業所・東京都中央卸売市場築地市場管理課・天厨菜館・中川特殊鋼・東屋 (わんこそば)・開伊川漁業協同組合・宮古水産物商業協同組合・岩手県立水産科学館・ほか大勢の皆さん。

一般社団法人 日本水圏環境教育研究会  
代表理事 佐々木 剛 (担当 三輪 宏)

一般社団法人 日本水圏環境教育研究会 JAMEEA

〒108-8477 東京都港区港南4丁目5番7号 東京海洋大学5号館412号室 水圏環境教育実践研究室内  
TEL/FAX 03-5463-0631 E-mail suiken0811090miwa@gmail.com

国立大学法人 東京海洋大学 水圏環境教育実践研究室

第5回 国際環太平洋海洋教育者ネットワーク会議  
5TH IPMEN Japan 2014 IN TOKYO/IWATE

2014/7/06 ~ 7/16  
活動報告書



7月11日研究発表会 (於:東京海洋大学楽水会館 鈴木善幸ホール)



碓川豊大槌町長との面談 (於:岩手県下閉伊郡大槌町役場会議室)

TUMSAI 国立大学法人 東京海洋大学 JAMEEA 一般社団法人 日本水圏環境教育研究会